



## 1. 自己評価

### I 評価結果

「秩序と活力」「生きる力の育成」「開かれた学校づくり」の3つを学校づくりの柱とし、具体的な取組を進めた。秩序ある環境づくりとして、チャイムを守ることは定着したが、落ち着いた学習のスタートや維持には課題が残る。生きる力の育成では掃除を通して、協力・奉仕・根気を養うことにした。児童が互いに励まし、認め合う場の設定が必要であった。また、全校での取組は、より具体化する必要がある。

学力向上のための授業づくりでは、表現力の育成に取り組んだ。各学年の取組は成果があった。

自己肯定感を高める取組は各学年団で一年間を通して進めることができた。その中で、言葉遣いは課題である。学校支援地域本部事業の充実の面では、一定の改善が進み、手応えを共有できた。

### II 分析・改善方策

学校づくりに向け、3つの柱を推進するためには、より具体的な取組を、全職員で共通理解し、教職員一人ひとりが6か年を意識した指導で当たることが大切である。特に、児童の豊かな心の育成をめざし、いろいろな場面で自己有用感を持たせ、自尊感情を育てる必要がある。また、基本的な言葉の遣い方を身に付けさせるため、言葉の環境づくりも必要である。

多様な人との出会いを通して、多様な考えを知り、自分の考え方を持たせたい。そのためには、家庭・地域との連携、PTAへの働きかけなど、もう一歩踏み込んだアプローチも必要である。

## 2. 学校関係者評価委員会

評価委員長：有木誠治（元美作大学講師）

評価委員：西尾公裕（PTA会長） 村田知与美（PTA副会長） 有木 操（主任児童委員） 吉田さつき（一宮保育所長） 廣幡 昇（町内会支部長） 尾原洋子（民生委員） 小村和弘（こどもプレイランド会長） 瀬島康子（読み聞かせ代表） 菊岡美和（学校支援地域本部事業コーディネーター） 廣谷桂子（あおぞらクラブ指導員）

## 3. 学校関係者評価

○全体的には大体規律が守れているが、落ち着きのない児童、決まりが守れていない児童が気になる。

○運動会や音楽発表会では、全体の活力の素晴らしさを感じた。このことを児童の自信につなぎ、次への意欲にすることが大切である。

○児童が協力したり、助け合ったりする場や静かに聞く態度の育成は、授業の中に設定することで、育てていくことが望ましい。

○思いやりとか言葉の乱れはまわりの大人の責任が大きい。家庭が土台であるが、家庭との連携の中で地道に取り組んでいくことが大切である。

## 4. 来年度の重点取り組み（学校評価を踏まえた今後の方向性）

○落ち着いた学習環境づくりに、全職員が同じことを同じ指導や対応で進める。また、学年団でのチームを大切にする。具体的には北陵中ブロックでの取組、場をきれいにし（掃除）時を守り（チャイムを守る）礼をつくす（挨拶）について、めざす児童像を明確にして取り組む。

○学力向上に向け、規律ある学習環境を整え、どの児童も分かる授業づくりをめざし、できる喜びを感じさせる。めざす児童像は表現力が豊かになること。

○学校支援地域本部事業の充実については、より活性化された事業へ向け、新しい活動を入れていく。

○活力につながる豊かな心の育成については、言葉の環境づくりに努める。「学校の約束1 自分が言われて嫌なことは言わない」について、教職員で指導の統一を図る。

○家庭・地域との連携やPTAとの連携を大切にしながら、融合の視点での取り組みを進める。